

授業科目 関係法規・制度

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	1単位	1単位	必修	講義	坎田
科目の概要	美容師法を中心に、美容業に関係の深い法令の内容を理解し、公衆衛生を担う美容師の社会的責任を学びます。				
授業計画					
回	項目	内容			
1	法制度の概要	社会生活における法の役割（人と社会生活）			
2	法制度の概要	社会生活における法の役割（法とは何か）			
3	法制度の概要	法の形式（憲法と日本の法令体系・条約）			
4	法制度の概要	法の形式（法律・命令・自治法規）			
5	法制度の概要	衛生法規の概要（衛生法規の意義）			
6	法制度の概要	衛生法規の概要（衛生法規の分類と生活衛生法規）			
7	法制度の概要	理容師法・美容師法と附属法令1			
8	法制度の概要	理容師法・美容師法と附属法令2			
9	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（行政とは何か）			
10	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（衛生行政の意義）			
11	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（我が国における衛生行政の歴史）			
12	衛生行政の概要	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（衛生行政の分類）			
13	衛生行政の概要	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（生活衛生行政）			
14	衛生行政の概要	衛生行政を担う行政機関（一般衛生行政の仕組み・厚生労働省の役割）			
15	衛生行政の概要	衛生行政を担う行政機関（都道府県及び市町村の役割・保健所の役割と機構）			
16	理容師法・美容師法	目的・用語の定義（理容・美容）			
17	理容師法・美容師法	用語の定義（理容師・美容師・理容所・美容所）			
18	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（概説・養成施設の入所資格・養成施設）			
19	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（試験・免許と登録・理容師・美容師の意義）			
20	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（業務停止、免許取消及び再免許）			
21	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（管理理容師・管理美容師）			
22	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（概説・理容所・美容所の開設）			
23	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（開設者の講ずべき衛生措置）			
24	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（理容所・美容所以外での業務）			
25	理容師法・美容師法	立入検査と環境衛生監視員			
26	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（違反者等に対する行政処分）			
27	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（不利益処分を行う場合の手続き）			
28	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（違法請求または不当な処分等について・罰則）			
29	関連法規	理容業・美容業の運営・衛生・消費者保護に関連する法律			
30	まとめ	理容師法・美容師法の構成・歴史			
達成目標	社会で行われているさまざまな法律行為を理解する				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 衛生管理

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	1単位	3単位	必修	講義	丘本
科目の概要	公衆衛生全般と、美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症について学びます。また、美容業に必要な消毒の意義、目的、方法や関連法令に則した実践を学びます。				
授業計画					
回	項目	内容			
1	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の意義と課題)			
2	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史① 欧米の公衆衛生の歩み)			
3	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史② 我が国の公衆衛生の歩み)			
4	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史③ 消毒法の歴史)			
5	公衆衛生	公衆衛生の概要(理容師・美容師と公衆衛生①)			
6	公衆衛生	公衆衛生の概要(理容師・美容師と公衆衛生②)			
7	公衆衛生	公衆衛生の概要(保健所と理容業と美容業)			
8	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の意義と課題)			
9	保健	保健(母子保健)			
10	保健	保健(成人・高齢者保健)			
11	保健	保健(精神保健)			
12	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生の内容)			
13	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生の目的と意義)			
14	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生活動)			
15	環境衛生	空気環境(空気と健康)			
16	環境衛生	空気環境(温度、湿度、気流(風)と健康)			
17	環境衛生	衣服・住居の衛生(衣服の衛生)			
18	環境衛生	衣服・住居の衛生(住居の衛生)			
19	環境衛生	上・下水道と廃棄物(上水道・下水道・廃棄物)			
20	環境衛生	衛生害虫とネズミ(衛生害虫・ネズミ)			
21	環境衛生	環境保全			
22	感染症	感染症の総論(人の感染症・感染症発見の歴史)			
23	感染症	感染症の総論(人の感染症・感染症と法律・分類)			
24	感染症	感染症の総論(病原微生物・微生物の種類・形と大きさ)			
25	感染症	感染症の総論(病原微生物・微生物の構造・増殖と環境の影響)			
26	感染症	感染症の予防(微生物の病原性と人体の感受性)			
27	感染症	感染症の予防(汚染・感染及び発病・常在細菌叢)			
28	感染症	感染症の予防(免疫と予防接種)			
29	感染症	感染症の予防(感染症発生の要因)			
30	感染症	感染症の予防(感染症予防の3原則)			
達成目標	美容業は、公衆衛生の向上に努めなければならない事を学び、研究や実践活動を通し、公衆衛生の意義と課題を理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 衛生管理

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年	2単位	3単位	必修	講義	丘本
科目の概要		公衆衛生全般と、美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症について学びます。また、美容業に必要な消毒の意義、目的、方法や関連法令に則した実践を学びます。			
授業計画					
回	項目	内容			
1~2	感染症	感染症の各論(理容・美容と感染症)			
3~4	感染症	主な感染症(空気・飛沫を介して感染する感染症)			
5~6	感染症	主な感染症(飲食物を介して感染する感染症)			
7~8	感染症	主な感染症(血液等を介して感染する感染症)			
9~10	感染症	主な感染症(動物・節足動物を介して感染する感染症)			
11~12	感染症	具体的な対策の例(標準予防策・咳のある客への対応)			
13~14	感染症	具体的な対策の例(病変の皮膚をもつ客への対応)			
15~16	感染症	具体的な対策の例(嘔吐をした客への対応)			
17~18	衛生管理技術	消毒法の総論(消毒とは・病原微生物と非病原微生物)			
19~20	衛生管理技術	消毒法の総論(消毒とは・消毒の原理)			
21~22	衛生管理技術	消毒の意義(汚染・感染・発病と消毒の意義)			
23~24	衛生管理技術	消毒の意義(殺菌・消毒・滅菌・防腐の定義)			
25~26	衛生管理技術	理容・美容の業務と消毒との関係(消毒に関連のある法の規定)			
27~28	衛生管理技術	理容・美容の業務と消毒との関係(消毒を怠った場合の危険性)			
29~30	衛生管理技術	消毒法と適用上の注意(消毒法の種類・消毒に必要な条件)			
31~32	衛生管理技術	消毒法と適用上の注意(病原微生物の抵抗力)			
33~34	衛生管理技術	消毒法と適用上の注意(消毒薬、使用液の使用と保存上の注意)			
35~36	衛生管理技術	理学的な消毒法(殺菌法)(紫外線消毒・煮沸消毒・蒸気その他の消毒法)			
37~38	衛生管理技術	化学的な消毒法(アルコール・次亜塩素酸ナトリウム、その他の消毒薬)			
39~40	衛生管理技術	すぐれた消毒法とその実施上の注意			
41~42	衛生管理技術	消毒法の実習(各種消毒薬・消毒薬の概要)			
43~44	衛生管理技術	消毒法の実習(各種消毒薬・器具の使い方)			
45~46	衛生管理技術	消毒法の実習(各種消毒薬・常備しておくとい消毒薬)			
47~48	衛生管理技術	消毒法の実習(各種消毒薬・消毒薬希釈法)			
49~50	衛生管理技術	理容所・美容所の消毒の実際(消毒の原則・設備・器具の消毒法)			
51~52	衛生管理技術	理容所・美容所の消毒の実際(理容師・美容師の手指の消毒)			
53~54	衛生管理技術	理容所・美容所の消毒の実際(理容所・美容所の消毒の現状)			
55~56	衛生管理技術	理容所・美容所の清潔法の実際			
57~58	衛生管理の実践例	理容所及び美容所における衛生管理要領1			
59~60	衛生管理の実践例	理容所及び美容所における衛生管理要領2			
達成目標	美容業は、公衆衛生の向上に努めなければならない事を学び、研究や実践活動を通し、公衆衛生の意義と課題を理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 保健

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	2単位	3単位	必修	講義	西田
科目の概要	美容師は人体に直接触れる職業であるため、頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造(解剖学)、機能(生理学)について学ぶ必要があります。また、皮膚や毛髪に関する深い理解を得るため、皮膚やその付属器官についても詳細に学びます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1~2	体表解剖学	人体各部の名称			
3~4	体表解剖学	頭部、顔部、頸部の体表解剖学			
5~6	骨格器系	骨の種類と構造と連結			
7~8	骨格器系	骨格器系とそのはたらき			
9~10	筋系	筋の種類とその特徴			
11~12	筋系	主な骨格筋とその特徴・表情筋と表情運動			
13~14	筋系	理容・美容の作業と筋疲労			
15~16	神経系	神経系の成り立ち			
17~18	神経系	中枢神経系と末梢神経系とそのはたらき			
19~20	感覚器系	視覚・聴覚・平衡感覚			
21~22	感覚器系	味覚・嗅覚・皮膚感覚			
23~24	血液・循環器系	血液のあらまし・血液循環の仕組み			
25~26	血液・循環器系	血液の循環経路・心臓と血管のはたらき			
27~28	血液・循環器系	リンパ管系の仕組みとはたらき			
29~30	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・気道			
31~32	呼吸器系	肺の仕組みとガス交換・呼吸運動			
33~34	消化器系	消化器系のあらましと仕組み			
35~36	消化器系	消化管のはたらき・消化と物質代謝			
37~38	皮膚の構造	皮膚の表面と断面			
39~40	皮膚の構造	表皮と真皮の境			
41~42	皮膚の構造	皮下組織と皮膚の部位差			
43~44	皮膚付属官の構造	毛・脂腺			
45~46	皮膚付属官の構造	汗腺・爪			
47~48	皮膚の構造循環系	皮膚の血管とリンパ管と神経			
49~50	生理機能	対外保護作用・体温調整作用			
51~52	生理機能	知覚作用と皮膚反射・分泌排泄作用			
53~54	生理機能	呼吸作用・吸収作用・貯蔵作用			
55~56	生理機能	免疫・解毒・排除作用			
57~58	生理機能	毛のはたらき			
59~60	生理機能	爪のはたらき			
達成目標	人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、人々の精神的、社会的健康に貢献できる				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 保健

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年	1単位	3単位	必修	講義	西田
科目の概要	美容師は人体に直接触れる職業であるため、頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造(解剖学)、機能(生理学)について学ぶ必要があります。また、皮膚や毛髪に関する深い理解を得るため、皮膚やその付属器官についても詳細に学びます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1	皮膚・付属器官の保健	皮膚と全身状態			
2	皮膚・付属器官の保健	皮膚と精神			
3	皮膚・付属器官の保健	皮膚と栄養			
4	皮膚・付属器官の保健	皮膚とし好品			
5	皮膚・付属器官の保健	皮膚と体内病変			
6	皮膚・付属器官の保健	皮膚と水分と脂の状態			
7	皮膚・付属器官の保健	皮膚・付属器官とホルモン			
8	皮膚・付属器官の保健	皮膚の保護と手入れ			
9	皮膚・付属器官の保健	毛の保護と手入れ			
10	皮膚・付属器官の保健	爪の保護と手入れ			
11	皮膚・付属器官の保健	子どものおしゃれによる皮膚トラブル			
12	皮膚・付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類			
13	皮膚・付属器官の疾患	皮膚疾患の原因			
14	皮膚・付属器官の疾患	皮膚疾患の治療法			
15	皮膚・付属器官の疾患	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹			
16	皮膚・付属器官の疾患	口唇の疾患			
17	皮膚・付属器官の疾患	温熱・寒冷による皮膚疾患			
18	皮膚・付属器官の疾患	角化異常による皮膚疾患			
19	皮膚・付属器官の疾患	色素異常による皮膚疾患			
20	皮膚・付属器官の疾患	血管腫			
21	皮膚・付属器官の疾患	脂腺母斑			
22	皮膚・付属器官の疾患	下肢静脈瘤			
23	皮膚・付属器官の疾患	分泌異常による皮膚疾患			
24	皮膚・付属器官の疾患	化膿菌による皮膚疾患			
25	皮膚・付属器官の疾患	ウイルスによる皮膚疾患			
26	皮膚・付属器官の疾患	真菌に皮膚疾患			
27	皮膚・付属器官の疾患	衛生害虫による皮膚疾患			
28	皮膚・付属器官の疾患	感染症の皮膚疾患の予防			
29	皮膚・付属器官の疾患	毛と爪の疾患			
30	皮膚・付属器官の疾患	皮膚の腫瘍			
達成目標	人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、人々の精神的、社会的健康に貢献できる				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 香粧品化学

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	1単位	2単位	必修	講義	美並
科目の概要	美容業において使用する器具や香粧品は、使用方法を誤ると人体に有害に働くこともあります。そこで香粧品化学では正しく、安全に取り扱うために必要な知識を学びます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性			
2	香粧品概論	香粧品の社会的意義			
3	香粧品概論	香粧品の品質と必要条件			
4	香粧品概論	香粧品の規制と定義			
5	香粧品概論	香粧品の製造販売と品質等の規制			
6	香粧品概論	香粧品の表示・広告の規制			
7	香粧品概論	香粧品の安定性と取扱い上の注意			
8	香粧品概論	香粧品の経時変化			
9	香粧品概論	香粧品の使用上、取扱い上の注意			
10	香粧品概論	香粧品と安全性とトラブル			
11	香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状			
12	香粧品用原料	香粧品の種類と機能			
13	香粧品用原料	皮膚と水・頭皮や毛髪 of 健康な状況			
14	香粧品用原料	爪の性状・まぶたや口唇の性状			
15	香粧品用原料	香粧品のなりたち・水性原料・水・エタノール			
16	香粧品用原料	油性原料・油脂・ロウ類・炭化水素・その他の油性原料と機能			
17	香粧品用原料	界面活性剤の基本的性質			
18	香粧品用原料	界面活性剤の種類と特性・香粧品への応用			
19	香粧品用原料	高分子化合物の種類と特性			
20	香粧品用原料	色材と香粧品・無機顔料			
21	香粧品用原料	有機合成色素・光輝性顔料			
22	香粧品用原料	調合香料			
23	香粧品用原料	その他の配合成分・香粧品原料の品質保持に用いられる配合成分			
24	香粧品用原料	香粧品配合成分があたえる機能			
25	香粧品用原料	その他の特殊成分			
26	香粧品用原料	ネイル・まつ毛エクステンション用材料			
27	香粧品用原料	合成樹脂・接着剤・塗料			
28	基礎香粧品	皮膚清浄用香粧品・皮膚の汚れと清浄作用			
29	基礎香粧品	石けんの種類とその性質			
30	基礎香粧品	その他の清浄剤			
達成目標	香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が香粧品に属するか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性を理解する				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 化粧品化学

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年	1単位	2単位	必修	講義	美並
科目の概要	美容業において使用する器具や化粧品は、使用方法を誤ると人体に有害に働くこともあります。そこで化粧品化学では正しく、安全に取り扱うために必要な知識を学びます。				
授業計画					
回	項目	内容			
1	基礎化粧品	化粧水の種類と機能性			
2	基礎化粧品	クリーム・乳液の皮膚への作用			
3	基礎化粧品	乳液の種類と機能			
4	基礎化粧品	その他の基礎化粧品・シェービング用化粧品			
5	基礎化粧品	化粧品			
6	基礎化粧品	ベビーパウダー・パック剤			
7	メイクアップ用化粧品	メイクアップ用化粧品の種類と剤形			
8	メイクアップ用化粧品	ベースメイクアップ化粧品			
9	メイクアップ用化粧品	おもしろ類			
10	メイクアップ用化粧品	ファンデーション類			
11	メイクアップ用化粧品	紅類			
12	メイクアップ用化粧品	アイメイクアップ化粧品			
13	メイクアップ用化粧品	ネイル技術用化粧品			
14	頭皮・毛髪用化粧品	シャンプー・ヘアリンス・トリートメント剤			
15	頭皮・毛髪用化粧品	スタイリング剤(油性・液状)			
16	頭皮・毛髪用化粧品	高分子物質を基剤とするスタイリング剤			
17	頭皮・毛髪用化粧品	パーマ液の原理・分類・第1剤・第2剤・使用上の注意			
18	頭皮・毛髪用化粧品	ヘアカラー製品の種類と染毛メカニズム			
19	頭皮・毛髪用化粧品	一時染毛剤・半永久染毛剤・脱色剤・永久染毛剤			
20	頭皮・毛髪用化粧品	その他のヘアカラー製品			
21	頭皮・毛髪用化粧品	脱毛の原因・育毛剤の種類と機能・養毛剤の原料			
22	芳香製品の特殊化粧品	芳香製品・香水・オーデオロン			
23	芳香製品の特殊化粧品	その他の芳香製品・効用と使用上の注意			
24	芳香製品の特殊化粧品	特殊化粧品 サンケア製品			
25	芳香製品の特殊化粧品	美白用化粧品			
26	芳香製品の特殊化粧品	制汗・防臭剤・ニキビ用化粧品			
27	化粧品の基礎化学	物質の構成・構造			
28	化粧品の基礎化学	溶解とコロイド・イオンと水素イオン指数			
29	化粧品の基礎化学	物質変化と化学反応			
30	化粧品の基礎化学	たんぱく質			
達成目標	化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が化粧品に属するか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性を理解する				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 文化論

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	1単位	2単位	必修	講義	小池
科目の概要	美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1	総論1	理容・美容の語義と現代社会			
2	総論2	文化史の中の理容・美容・造形要素			
3	日本の美容業の歴史	理容業・美容業の発生			
4	日本の美容業の歴史	江戸時代の理容業・美容業			
5	日本の美容業の歴史	近代の理容業・美容業			
6	日本の美容業の歴史	現代の理容業・美容業			
7	ファッション文化史A	縄文・弥生時代			
8	ファッション文化史A	古墳時代			
9	ファッション文化史A	古代(飛鳥時代)			
10	ファッション文化史A	古代(奈良時代)			
11	ファッション文化史A	古代(平安時代)			
12	ファッション文化史A	中世(平安末時代)			
13	ファッション文化史A	中世(鎌倉時代)			
14	ファッション文化史A	中世(室町時代)			
15	ファッション文化史A	中世(戦国時代)			
16	ファッション文化史A	近世Ⅰ(戦国末時代)			
17	ファッション文化史A	近世Ⅰ(安土桃山時代)			
18	ファッション文化史A	近世Ⅱ(江戸時代)			
19	ファッション文化史A	近代(明治時代)			
20	ファッション文化史A	近代(大正時代)			
21	ファッション文化史A	近代(昭和20年まで)			
22	ファッション文化史A	近代(昭和20年まで)			
23	ファッション文化史A	現状Ⅰ(1945年～1950年代)			
24	ファッション文化史A	現状Ⅰ(1945年～1950年代)			
25	ファッション文化史A	現状Ⅱ(1960年～1970年代)			
26	ファッション文化史A	現状Ⅱ(1960年～1970年代)			
27	ファッション文化史A	現状Ⅲ(1980年～1990年代)			
28	ファッション文化史A	現状Ⅲ(1980年～1990年代)			
29	ファッション文化史A	現状Ⅳ(2000年代以降)			
30	ファッション文化史A	現状Ⅳ(2000年代以降)			
達成目標	お客さまが求める美しさを的確に理解するために、創造の幅を広げるエッセンスを理解できる基礎を身につける。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				



授業科目 文化論

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年	1単位	2単位	必修	講義	小池
科目の概要	美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1	ファッション文化史B	古代エジプト			
2	ファッション文化史B	古代ギリシャ			
3	ファッション文化史B	古代ローマ			
4	ファッション文化史B	古代ゲルマン			
5	ファッション文化史B	中世ヨーロッパ			
6	ファッション文化史B	近世Ⅰ(16世紀)			
7	ファッション文化史B	近世Ⅰ(16世紀)			
8	ファッション文化史B	近世Ⅱ(17世紀)			
9	ファッション文化史B	近世Ⅱ(17世紀)			
10	ファッション文化史B	近世Ⅲ(18世紀)			
11	ファッション文化史B	近世Ⅲ(18世紀)			
12	ファッション文化史B	近代Ⅰ(18世紀末)			
13	ファッション文化史B	近代Ⅰ(19世紀始め)			
14	ファッション文化史B	近代Ⅱ(19世紀)			
15	ファッション文化史B	現代Ⅰ(1910年代)			
16	ファッション文化史B	現代Ⅰ(1920年代)			
17	ファッション文化史B	現代Ⅱ(1930年代)			
18	ファッション文化史B	現代Ⅱ(1940年代前半)			
19	ファッション文化史B	現代Ⅲ(1940年代後半)			
20	ファッション文化史B	現代Ⅲ(1950年代)			
21	ファッション文化史B	現代Ⅳ(1960年代)			
22	ファッション文化史B	現代Ⅴ(1970年代)			
23	ファッション文化史B	現代Ⅵ(1980年代)			
24	ファッション文化史B	現代Ⅵ(1980年代)			
25	ファッション文化史B	現代Ⅶ(1990年代)			
26	ファッション文化史B	現代Ⅶ(1990年代)			
27	ファッション文化史B	現代Ⅶ(2010年代)			
28	ファッション文化史B	現代Ⅶ(2010年代)			
29	礼服の種類	和装の礼装			
30	礼服の種類	洋装の礼装			
達成目標	お客さまが求める美しさを的確に理解するために、創造の幅を広げるエッセンスを理解できる基礎を身につける。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 運営管理

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	1単位	1単位	必修	講義	坎田
科目の概要	美容業にもとめられる接客の意義と技術を習得すると共に、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を身に付けます。				
授業計画					
回	項目	内容			
1	経営者の視点	経営とは・経営者とは			
2	経営者の視点	経営者が必要とされる理由・継続が難しい理由			
3	経営者の視点	経営とは何か・経営資源・経営計画			
4	経営者の視点	経営戦略・経営戦略が目指すもの			
5	美容業の経営	業界の概要・競争変化			
6	美容業の経営	サービスとしての美容・顧客			
7	資金の管理	資金管理の重要性			
8	資金の管理	収支と損益			
9	資金の管理	会計の考え方			
10	資金の管理	コストを管理する・税金			
11	人という資源	従業員としての視点			
12	人という資源	人の能力を高める			
13	人という資源	人をやる気にさせるために			
14	人という資源	給与・待遇・福利厚生			
15	人という資源	労働者の権利			
16	健康・安全な職場環境	健康管理の基礎			
17	健康・安全な職場環境	仕事と健康・特徴的な健康課題・健康問題			
18	従業員としての視点	社会人・美容業の従業員としての責任			
19	従業員としての視点	社会保険① ～公的年金・医療保険・労働保険～			
20	従業員としての視点	キャリアプラン・仕事をするうえで考えるべきこと			
21	サービス・デザイン	顧客が求める価値・実態・システム			
22	サービス・デザイン	最も重要な価値：人・価値の多様化・サービスの範囲			
23	マーケティング	マーケティングの特徴・要点			
24	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの要因・短期的要因①・②			
25	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスの要因・長期的要因①・②			
26	システム化	サービスのシステム化			
27	サービスにおける役割	接客について・よい接客のために			
28	サービスにおける役割	接客の実践①・②・③			
29	サービスにおける役割	接客の実践④・⑤			
30	トラブルと対応	予測される問題と対策と対処			
達成目標	美容業における経営や経営者について、基本的な考え方と経営の要点を理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 美容技術理論

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年	3単位	5単位	必修	講義	小池
科目の概要	美容用具の正しい取り扱い方法を学び、シャンプー、ヘアデザイン、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラーなどの基礎的技術理論を身に付けます。				
授業計画					
回	項目	内容			
1～3	美容技術理論を学ぶ	美容理論と美容技術			
4～6	美容技術理論を学ぶ	美容技術における作業姿勢			
7～9	美容技術理論を学ぶ	美容技術に必要な人体各部の名称			
10～12	美容用具	美容技術における用具			
13～15	美容用具	コーム・ブラシ・シザーズ			
16～18	美容用具	レザー・ピン類・ヘアクリップ・ロッド・ローラー			
19～21	美容用具	ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機			
22～24	シャンプーイング	シャンプーイング総論			
25～27	シャンプーイング	サイドシャンプー・バックシャンプー			
28～30	シャンプーイング	リンス・コンディショナー・トリートメント・スカルプトリートメント			
31～33	シャンプーイング	ヘッドスパ・美容とデザイン			
34～36	ヘアカッティング	ヘアカッティングとは			
37～39	ヘアカッティング	シザーズとレザーの扱い方			
40～42	ヘアカッティング	美容刃物			
43～45	ヘアカッティング	ヘアカッティングの正しい姿勢			
46～48	ヘアカッティング	ベーシックなカット技法・シザーズ・レザーによるカット技法			
49～51	パーマメントウエービング	パーマメントウエービングの歴史と理論			
52～54	パーマメントウエービング	パーマ剤の分類と注意事項			
55～57	パーマメントウエービング	パーマメントウエービング技術			
58～60	パーマメントウエービング	ワインディングのバリエーション・縮毛矯正			
61～63	ヘアセッティング	ヘアセッティングとは			
64～66	ヘアセッティング	ヘアパーティンぐ・ヘアシェービング・ヘアカーリング			
67～69	ヘアセッティング	ローラーカーリング・ブローカーリング			
70～72	ヘアセッティング	ブロードライ・アイロンセッティング			
73～75	ヘアセッティング	アップスタイル・ウィッグとヘピース			
76～78	ヘアカラーリング	ヘアカラーリング概論			
79～81	ヘアカラーリング	ヘアカラーの種類・タイプ別特徴			
82～84	ヘアカラーリング	色の基本・毛髪のレベルとアンダートーン			
85～87	ヘアカラーリング	ヘアカラーリングの道具・酸化酸性染毛剤			
88～90	ヘアカラーリング	ヘアブリーチ			
達成目標	美容技術には、その裏付けとなる理論が必ずあり、美容師として「なぜ」を解き明かす鍵である美容技術理論を幅広く理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70% 平常素点 学科・・・30%				

授業科目 美容技術理論

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年	2単位	5単位	必修	講義	小池
科目の概要	エステティック、ネイル、メイクアップ、日本髪、着付けなどの技術を学び、美容の基礎的技術理論を身に付けます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～2	エステティック	エステティック概論			
3～4	エステティック	皮膚と生理と構造・カウンセリング			
5～6	エステティック	美容におけるマッサージ理論・フェイシャルマッサージ理論			
7～8	エステティック	フェイシャル及びデコルテマッサージ			
9～10	エステティック	フェイシャルパック			
11～12	エステティック	ボディケア技術・ボディマッサージ			
13～14	ネイル技術	ネイル技術概論・技術種類			
15～16	ネイル技術	爪の構造と機能とカット形状			
17～18	ネイル技術	ネイル技術の公衆衛生			
19～20	ネイル技術	ネイルケアとカウンセリング			
21～22	ネイル技術	アーティフィシャルネイル			
23～24	ネイル技術	手と足のマッサージ			
25～26	メイクアップ	メイクアップ概論			
27～28	メイクアップ	顔の形状学的な観察			
29～30	メイクアップ	メイクアップと色彩・皮膚の生理と構造			
31～32	メイクアップ	メイクアップの道具・スキンケア			
33～34	メイクアップ	アイブロウメイクアップ			
35～36	メイクアップ	まつ毛エクステンション			
37～38	日本髪	日本髪の由来と各部の名称			
39～40	日本髪	日本髪の種類と特徴と調和			
41～42	日本髪	日本髪の装飾品・結髪道具			
43～44	日本髪	日本髪の結髪技術①			
45～46	日本髪	日本髪の結髪技術②			
47～48	日本髪	日本髪の手入れとかつら			
49～50	着付けの理論と技術	着付けの目的			
51～52	着付けの理論と技術	礼装・着物と季節・着物の種類			
53～54	着付けの理論と技術	帯・小物・各部の名称とたたみかた			
55～56	着付けの理論と技術	着付けの一般的な要領と技術(留袖・振袖)			
57～58	着付けの理論と技術	帯締め・帯揚げの結び方・男子礼装・袴着付け技術			
59～60	着付けの理論と技術	女子袴の着付け技術・婚礼・和装花嫁・洋装花嫁			
達成目標	美容技術には、その裏付けとなる理論が必ずあり、美容師として「なぜ」を解き明かす鍵である美容技術理論を幅広く理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・70%    平常素点 学科・・・30%				

授業科目 美容実習 I

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年1学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学びます。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～7	美容実習について①	美容実習を学ぶ為の心得・注意事項・安全な作業方法の説明			
8	美容実習について②	カリキュラムと今後の目標			
9～15	美容実習について③	美容用具の名称と使用方法・正しい取扱い方法			
16～22	ブロッキング	ブロッキングとは（10ブロック）			
23	ブロッキング	ロッド・コームの扱いと種類・正しい位置と姿勢			
24～30	ブロッキング	フロント(第1ブロック)			
31～37	ブロッキング	フロント(第2ブロック)			
38	ブロッキング	フロント(第1・第2ブロック)			
39～45	ブロッキング	フロント(第3・第4ブロック)			
46～52	ブロッキング	フロント(第5・第8ブロック)			
53	ブロッキング	フロント(第3・第4・第5・第8ブロック)			
54～60	ブロッキング	フロント(第6・第9ブロック)			
61～67	ブロッキング	フロント(第7・第10ブロック)			
68	ブロッキング	フロント(第1～第10ブロック)			
69～75	ワインディング	ワインディングとは・ワインディングの魅力			
76～82	ワインディング	スライス時の目の位置・スライスの仕方			
83	ワインディング	ベースの厚さ			
84～90	ワインディング	シェーピング・ステムの角度・ボリューム			
91～97	ワインディング	毛先の処理と巻き方・ゴムのかけ方			
98	ワインディング	正しいロッドの状態・間違った状態			
99～105	ワインディング	上巻きの基本的な巻き方			
106～112	ワインディング	下巻きの基本的な巻き方			
113	ワインディング	上巻きと下巻き			
114～120	ワインディング	毛先が不ぞろいな平巻き・縦巻き			
121～27	ワインディング	第1ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
128	ワインディング	第1ブロックの確かめ			
129～135	ワインディング	第2ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
136～142	ワインディング	第3ブロック・第4ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
143	ワインディング	第1ブロック～第4ブロックの確かめ			
144～150	ワインディング	第1ブロック～第4ブロックのタイムトライ			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 美容実習 I

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年2学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学ぶための教材です。				
授業計画					
回	項目	内容			
1～7	ワインディング	第5ブロック・第8ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
8	ワインディング	第1ブロック～第4・第5・第8ブロックの確かめ			
9～15	ワインディング	第6ブロック・第9ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
16～22	ワインディング	第7ブロック・第10ブロックの巻き順と正しい位置と間違った位置			
23	ワインディング	ワインディングに隠されたテクニックと奥深さ			
24～30	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(30分・ブロッキングあり)			
31～37	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(30分・ブロッキングあり)			
38	ワインディング	ワインディングのバリエーション			
39～45	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(30分・ブロッキングなし)			
46～52	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(25分・ブロッキングなし)			
53	ワインディング	ブロッキングの大切さとワインディングの美しさ			
54～60	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(25分)			
61～67	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(20分)			
68	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(18分)			
69～75	ワインディング	ワインディングタイムトライアル(16分)			
76～82	ヘアセッティング	ヘアカーリング(メイポールカール・スカルプチュアカール)			
83	ヘアセッティング	ヘアカーリング(リフトカール)			
84～90	ヘアセッティング	ヘアカーリング(クロックノールカール・スタンドアップカール)			
91～97	ヘアセッティング	ヘアカーリング(ラリアットカール・)			
98	ヘアセッティング	ヘアウェービングの説明と解説			
99～105	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(1段目のシェーピング(半円)・リッジをつくる)			
106～112	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(2段目のシェーピング(半円)・リッジをつくる)			
113	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(ノーパート、7段構成)			
114～120	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(ノーパート、7段構成)			
121～27	ヘアセッティング	メイポールカールによるウェーブ構成			
128	ヘアセッティング	メイポールカールによるウェーブ構成			
129～135	ヘアセッティング	スカルプチュアカールによるウェーブ構成			
136～142	ヘアセッティング	リフトカールによるウェーブ構成			
143	ヘアセッティング	ローラーカーリング			
144～150	ヘアセッティング	ローラーカーリング			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 美容実習 I

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1年3学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学ぶための教材です。				
授業計画					
回	項目	内容			
1～7	ヘアカーリング	ヘアカラーリングの基礎知識と安全な作業			
8	ヘアカーリング	ヘアカーリング塗布技術の基礎			
9～15	ヘアカーリング	塗布技術・酸性染毛料			
16～22	ヘアカーリング	塗布技術・酸性染毛料			
23	ヘアカーリング	ショートヘアの場合(コームアクション)			
24～30	ヘアカーリング	塗布技術のいろいろ			
31～37	アップスタイル	アップスタイルの基礎技術			
38	アップスタイル	アップスタイル種類と技術			
39～45	アップスタイル	創造したスタイルを作る(様々な資料や画像から)			
46～52	アップスタイル	創造したスタイルを作る(テーマを見つけスタイルを考える)			
53	アップスタイル	創造したスタイルを作る(テーマからの技術)			
54～60	アップスタイル	創造したスタイルを作る(作品製作1)			
61～67	アップスタイル	創造したスタイルを作る(作品製作2)			
68	アップスタイル	創造したスタイルを作る(作品製作3)			
69～75	アップスタイル	創造したスタイルを作る(作品製作4)			
76～82	アップスタイル	創造したスタイルを作る(作品製作5)			
83	アップスタイル	アップスタイルの実演展示1			
84～90	アップスタイル	アップスタイルの実演展示2			
91～97	シャンプー	接客におけるクロス掛け			
98	シャンプー	ブラッシング			
99～105	シャンプー	すすぎ(サイドシャンプー)			
106～112	シャンプー	すすぎ(サイドシャンプー)			
113	シャンプー	すすぎ(サイドシャンプー)			
114～120	シャンプー	シャンプーイング・リンス(サイドシャンプー)			
121～27	シャンプー	シャンプーイング・リンス(サイドシャンプー)			
128	シャンプー	シャンプーイング・リンス(サイドシャンプー)			
129～135	シャンプー	シャンプーイング・リンス(バックシャンプー)			
136～142	シャンプー	シャンプーイング・リンス(バックシャンプー)			
143	シャンプー	シャンプーイング・リンス(バックシャンプー)			
144～150	シャンプー	タオルドライとターバン			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 美容実習Ⅱ

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年1学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセット、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学ぶための教材です。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～7	ヘアカット	ワンレングスカットのスタイルとカット技法			
8	ヘアカット	ワンレングスカットのブロッキング			
9～15	ヘアカット	ワンレングスカットのバックセクション			
16～22	ヘアカット	ワンレングスカットのサイドセクション			
23	ヘアカット	ワンレングスカットのバックセクションとサイドセクション			
24～30	ヘアカット	ワンレングスカットのサイドセクション			
31～37	ヘアカット	ワンレングスカットの確認			
38	ヘアカット	グラデーションのスタイルとカット技法			
39～45	ヘアカット	グラデーションのブロッキング			
46～52	ヘアカット	グラデーションのバックセクション			
53	ヘアカット	グラデーションのブロッキング・バックセクション			
54～60	ヘアカット	グラデーションのサイドセクション			
61～67	ヘアカット	グラデーションのバックセクションとサイドセクション			
68	ヘアカット	グラデーションのバックセクションとサイドセクション			
69～75	ヘアカット	グラデーションの確認			
76～82	ヘアカット	縦スライドのグラデーションスタイル			
83	ヘアカット	縦スライドのグラデーションスタイル			
84～90	ヘアカット	縦スライドのグラデーションスタイル			
91～97	ヘアカット	レイヤーカットのスタイルとカット技法			
98	ヘアカット	レイヤーカットのブロッキング			
99～105	ヘアカット	レイヤーカットのバックセクション			
106～112	ヘアカット	レイヤーカットのサイドセクション			
113	ヘアカット	レイヤーカットのバックセクションとサイドセクション			
114～120	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 1			
121～27	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 2			
128	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 3			
129～135	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 4			
136～142	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 5			
143	ヘアカット	様々なカットスタイルのカット技法を学ぶ 6			
144～150	ヘアカット	カット技法を使ったアレンジスタイルの作成			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				



授業科目 美容実習Ⅱ

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年2学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学ぶための教材です。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～7	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(シャンプー)			
8	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(シャンプー)			
9～15	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(ブロー)			
16～22	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(ヘアカラー)			
23	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(ヘアカラー)			
24～30	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(ヘアカラー)			
31～37	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(カット)			
38	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(カット)			
39～45	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(カット)			
46～52	モニターサロン	美容室を想定した接客における実演・実習(カット)			
53	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
54～60	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
61～67	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
68	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
69～75	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
76～82	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
83	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
84～90	サロン応用技術	美容師を想定した実演・実習(応用編)			
91～97	国家試験 第1課題	ワインディング 30分(ブロッキング)			
98	国家試験 第1課題	ワインディング 30分(ブロッキング)			
99～105	国家試験 第1課題	ワインディング 30分(ブロッキング)			
106～112	国家試験 第1課題	ワインディング 30分			
113	国家試験 第1課題	ワインディング 30分			
114～120	国家試験 第1課題	ワインディング 25分			
121～27	国家試験 第1課題	ワインディング 25分			
128	国家試験 第1課題	ワインディング 20分			
129～135	国家試験 第1課題	ワインディング 20分			
136～142	国家試験 第1課題	ワインディング 19分			
143	国家試験 第1課題	ワインディング 19分			
144～150	国家試験 第1課題	ワインディング 18分			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 美容実習Ⅱ

※実務経験のある教員により指導される科目です。

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
2年3学期	15単位	30単位	必修	実習	小松・大野・小池
科目の概要	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセット、カラーなどの基本的技術を、美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学ぶための教材です。				
授業計画					
回	項目	内容			
1～7	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 25分			
8	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 25分			
9～15	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 25分			
16～22	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 25分			
23	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 25分			
24～30	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 24分			
31～37	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 24分			
38	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 24分			
39～45	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 24分			
46～52	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 23分			
53	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 23分			
54～60	国家試験 第1課題	オールウェーブセット 23分			
61～67	国家試験 第2課題	カット 30分			
68	国家試験 第2課題	カット 30分			
69～75	国家試験 第2課題	カット 30分			
76～82	国家試験 第2課題	カット 25分			
83	国家試験 第2課題	カット 25分			
84～90	国家試験 第2課題	カット 20分			
91～97	国家試験 第2課題	カット 20分			
98	国家試験 第2課題	カット 19分			
99～105	国家試験 第2課題	カット 19分			
106～112	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
113	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
114～120	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
121～27	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
128	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
129～135	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
136～142	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
143	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
144～150	国家試験 第1・2課題	技術確認と試験対策(カット・ワインディング・オールウェーブ)			
達成目標	職業人としての「美容技術」を身に付け、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 選択必修課目(エステティック)

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1・2年	10単位	20単位	選択	実習	大野
科目の概要	エステティックで行う技術では、皮膚に対して、物理的・化学的な方法を施し、その生理機能を整える。健康で美しい皮膚を継続させる目的として化粧品や機器、手などのさまざまな方法を使った知識・技術を学ぶ。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～2	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアスタイルに応じたデッサンの概要と説明			
3～10	エステティック基礎1	エステティック備品類の名称と器具名			
11～12	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎1			
13～20	エステティック基礎2	エステティックにおける手技の基礎			
21～22	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎2			
23～30	エステティック基礎3	クレンジング手技			
31～32	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎3			
33～40	エステティック基礎4	マッサージオイル手技			
41～42	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎4			
43～50	エステティック基礎5	フェイシャルマッサージ手技			
51～52	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎5			
53～60	エステティック基礎6	フェイシャルマッサージ手技			
61～62	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用1			
63～70	エステティック基礎7	デコルテマッサージ手技			
71～72	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用2			
73～80	エステティック基礎8	デコルテマッサージ手技			
81～82	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用3			
83～90	エステティック基礎9	デコルテマッサージ手技			
91～92	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用4			
93～100	エステティック基礎10	背中のマッサージ手技			
101～102	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用5			
103～110	エステティック基礎11	背中のマッサージ手技			
111～112	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写1			
113～120	エステティック基礎12	背中のマッサージ手技			
121～122	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写2			
123～140	エステティック基礎13	フェイシャルパックとマスク手技			
141～142	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写3			
143～150	エステティック基礎14	フェイシャルパックとマスク手技			
150～200	エステティック実習・基礎	実際の手技を使用した実習基礎			
200～300	エステティック実習・応用	実際の手技を使用した応用基礎			
達成目標	人の容姿を美しく整えることを目的とした毛髪美粧以外の全身に関わる皮膚の美容法の理解する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 選択必修課目(ネイルベーシック)

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1・2年	10単位	20単位	選択	実習	小松
科目の概要	マニキュア・ペディキュア・手足のマッサージや化粧法、さらには、ネイルアートやアーティフェシャルネイル(人工爪)などが含まれる、幅広い美容技術を学ぶ。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～2	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアスタイルに応じたデッサンの概要と説明			
3～10	ネイル技術基礎1	ネイル備品類の名称と器具名			
11～12	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎1			
13～20	ネイル技術基礎2	ネイルにおける手技の基礎			
21～22	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎2			
23～30	ネイル技術基礎3	ネイルケア1			
31～32	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎3			
33～40	ネイル技術基礎4	ネイルケア2			
41～42	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎4			
43～50	ネイル技術基礎5	ネイルケア3			
51～52	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎5			
53～60	ネイル技術基礎6	ネイルケア4			
61～62	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用1			
63～70	ネイル技術基礎7	アーティフェシャルネイル1			
71～72	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用2			
73～80	ネイル技術基礎8	アーティフェシャルネイル2			
81～82	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用3			
83～90	ネイル技術基礎9	アーティフェシャルネイル3			
91～92	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用4			
93～100	ネイル技術基礎10	アーティフェシャルネイル4			
101～102	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用5			
103～110	ネイル技術基礎11	ネイルアート1			
111～112	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写1			
113～120	ネイル技術基礎12	ネイルアート2			
121～122	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写2			
123～140	ネイル技術基礎13	ネイルアート3			
141～142	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写3			
143～150	ネイル技術基礎14	手と足のマッサージ			
150～200	ネイル技術応用1	実際の手技を使用した実習基礎			
200～300	ネイル技術応用2	実際の手技を使用した応用基礎			
達成目標	指先から手足全体を美しく健康的に、清潔に保てる技術と知識を習得する。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 選択必修課目(メイクアップ)

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1・2年	10単位	20単位	選択	実習	芝原
科目の概要	ベーシックメイクアップからステップアップした応用テクニックを学ぶ				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～2	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアスタイルに応じたデッサンの概要と説明			
3～10	メイクアップ基礎1	メイクアップ備品類の名称と器具名			
11～12	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎1			
13～20	メイクアップ基礎2	メイクアップにおける手技の基礎			
21～22	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎2			
23～30	メイクアップ基礎3	スキンヘア			
31～32	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎3			
33～40	メイクアップ基礎4	ベーシックメイクアップ			
41～42	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎4			
43～50	メイクアップ基礎5	アイメイクアップ			
51～52	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎5			
53～60	メイクアップ基礎6	アイブロウメイクアップ			
61～62	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用1			
63～70	メイクアップ基礎7	アイブロウメイクアップ			
71～72	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用2			
73～80	メイクアップ基礎8	リップメイクアップ			
81～82	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用3			
83～90	メイクアップ基礎9	リップメイクアップ			
91～92	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用4			
93～100	メイクアップ基礎10	ブラッシュオンメイクアップ			
101～102	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用5			
103～110	メイクアップ基礎11	ひとの顔から5つの表情を引き出す			
111～112	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写1			
113～120	メイクアップ基礎12	ひとの顔から5つの表情を引き出す			
121～122	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写2			
123～140	メイクアップ基礎13	特別に輝きたい日のために			
141～142	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写3			
143～150	メイクアップ基礎14	まつ毛エクステンション			
150～200	メイクアップ応用1	実際の手技を使用した実習基礎			
200～300	メイクアップ応用2	実際の手技を使用した応用基礎			
達成目標	メイクアップアーティストとして、基礎的な技術と知識を身に付け、応用テクニックで施術できる。				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				

授業科目 選択必修課目(着 付)

履修学年	単位数	卒業単位数	必選区分	授業方法	講師
1・2年	10単位	20単位	選択	実習	芝原
科目の概要	着付け技術には日本の伝統的な文化がある。その文化や伝統を学び、さまざまな着付けの技術について学ぶ。				
授業計画					
回	項目	内 容			
1～2	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアスタイルに応じたデッサンの概要と説明			
3～10	着付の基礎1	着付備品類の名称と器具名			
11～12	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎1			
13～20	着付の基礎2	着付における手技の基礎			
21～22	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎2			
23～30	着付の基礎3	留袖着付け技術1			
31～32	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎3			
33～40	着付の基礎4	留袖着付け技術2			
41～42	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎4			
43～50	着付の基礎5	振袖着付け技術1			
51～52	ヘアスタイル画(全科共通)	ヘアデッサン画の基礎5			
53～60	着付の基礎6	振袖着付け技術2			
61～62	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用1			
63～70	着付の基礎7	男子礼装羽織、袴着付け技術1			
71～72	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用2			
73～80	着付の基礎8	男子礼装羽織、袴着付け技術2			
81～82	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用3			
83～90	着付の基礎9	男子礼装羽織、袴着付け技術3			
91～92	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用4			
93～100	着付の基礎10	女子袴着付け1			
101～102	ヘアスタイル画	ヘアデッサン画の応用5			
103～110	着付の基礎11	女子袴着付け2			
111～112	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写1			
113～120	着付の基礎12	打掛着付け技術1			
121～122	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写2			
123～140	着付の基礎13	打掛着付け技術2			
141～142	ヘアスタイル画	イラストボードへの描写3			
143～150	着付の基礎14	伝統的な花嫁着付け			
150～200	着付の応用1	実際の手技を使用した実習基礎			
200～300	着付の応用2	実際の手技を使用した応用基礎			
達成目標	着物をより美しくかわいらしく、格式高く着せる技術・知識を身につける				
成績評価の方法	1、各学期の成績評価は100点法とする。 2、学年末成績評価は各学期の成績評価の相加平均とする。 3、成績評価は平常素点と考査素点の合計点とする。 考査素点 学科・・・80% 平常素点 学科・・・20%				